

アール・ヌーボーからアール・デコへ

20世紀初頭 ヨーロッパでは「新しい芸術」を意味するアール・ヌーボーという装飾様式が流行して建築工芸や室内装飾、ポスターなどにとり入れられた。植物の蔓のようにくねくねした曲線が特徴である。

19世紀から用いられた婦人の靴は鳩目の数が多い手工芸的な深編上靴で、後部にカーブのあるヒールが付いていた。この様式は1910年頃まで続き、次第に短靴やパンプスへと移り変わった。

1920年頃からは、アール・ヌーボーに反して直線的で幾何学的なスタイルがとり入れられるようになった。1925年(大正14年)パリで開かれた装飾美術の国際展覧会の名称から アール・デコという様式名で呼ばれている。

デザイナーのガブリエル・シャネル(1883-1971)はシンプルで機能的な婦人服を発表して世間を驚かせた。スカートは短かめで足もとが目立つようになり婦人靴

のデザインにもアール・デコ調がとり入れられた。この新しいファッションはヨーロッパからアメリカへ、そして日本にも伝わるようになる。

横浜の山下公園に係留されている日本郵船氷川丸は1930年(昭和5年)竣工の貨客船で内装にはアール・デコ様式がとり入れられた貴重なものとなっている。

昭和初期の海外旅行は船によるもので“洋行帰り”の人たちの服装や持物にもアール・デコの傾向が見られ、当時流行の婦人靴は機能的な中ヒールのパンプスで、黒のスエードなどを用いた直線的な飾りのあるものが普及した。

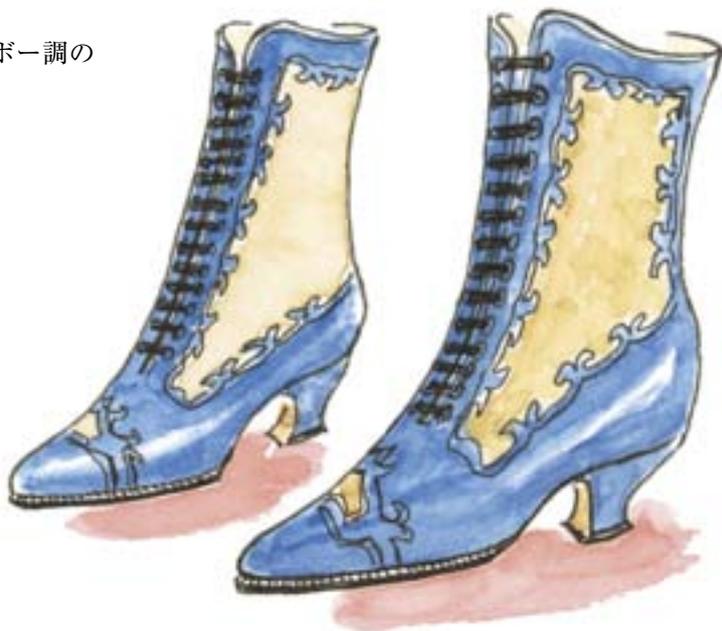


←氷川丸 (1930年竣工 11,622総トン)
シアトル航路の貨客船、現在日本郵船氷川丸として横浜山下公園に係留
↓アール・デコ調の氷川丸一等食堂



写真は日本郵船歴史博物館 提供

アール・ヌーボー調の
婦人深編上靴
1900年頃



アール・デコ調の婦人
パンプス
1930年頃
(クツのオーツカ資料館蔵)



飾枠は大塚商店製造販売品定価表（1907）より